

はじめに

本書はEPA（経済連携協定）で外国人介護師候補者として来日し、介護施設において2年目の就業と学習を行っているみなさんを主な対象としています。みなさんは普段の仕事に加えて日本語の勉強と介護福祉士国家試験を同時に行うという大変困難な状況にあります。これまでは日本語の勉強が中心で、徐々に専門分野の学習を増やしてきたのではないのでしょうか。しかし、就業2年目となると、専門的な内容が徐々に難しくなっていることでしょうか。介護福祉の専門家と日本語教師の協働が必要です。

その方法の一つとして、私たちの教育システムでは、本書を使った授業は日本語教師が行い、専門家からはビデオ講義を提供してもらい、またSNSでのアドバイスを組み合わせた方法をとっています。（後者については科学研究費基盤（B）「介護の日本語専門教育のモデルカリキュラムの策定とICTを利用した学習コースの開発」（研究代表者：西郡仁朗）を通じて一般公開していきます。）

この教育方法の開発は、東京都立大学オープンユニバーシティ「介護福祉士を目指す人のための介護の専門日本語講座」、またその前身である東京都と首都大学東京（現東京都立大学）の「アジアと日本の将来を担う看護・介護人材の育成プロジェクト」の多くの方々の努力の結晶です。また、本教材は、佐賀大学 布尾勝一郎氏代表の研究チームが作成した「やさしい日本語を用いた介護の専門語彙学習教材」の一部を利用させていただきました。

記して感謝したいと思います。

高度な高齢化社会の日本には、みなさんのような外国人介護福祉士が必要で、今後とも皆さんが活躍できる社会を目指していきたいと思っています。

2021年2月 西郡仁朗